

豊川小だより

9 月号

豊川小ホームページ

<https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakko.joho/kuritsu/toyokawa/index.html>

令和5年9月1日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

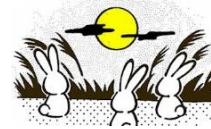
ホームページ

QRコード



つづけること つなぐこと

校長 中村 順子



6年生にとっての最後の宿泊学習は、「日光高原学園」という名称ですが、4, 5年生の宿泊学習とは異なり、区の施設ではなく民間の旅館に宿泊する3日間になります。この夏、担任時代以来5年ぶりに引率をしたことで、懐かしい方々とお会いすることができました。

今回豊川小がお世話になった宿の前に「湯乃湖荘」があります。こじんまりとした旅館ですが、おいしい食事を提供することで名が知られています。私も担任の時に何度かお世話になったのですが、その女将さんが私のことを覚えていてくださり、2日目の夕方、少し時間があつたときに、女将さんとお話することができました。女将さんは「私は他の旅館さんのようなハイカラなメニューは作れないんです。相変わらず代わり映えしないものばかり、煮物とかになってしまうんですが、生徒さんたちに『お袋の味』としてお伝えしたいと続けているんです。いやあ、もう、『お袋』ではなく『おばあちゃんの味』ですね。」と笑いながら、穏やかな栃木訛りで話されました。

またもうお一人、北区が日光に宿泊している期間に現地駐在を担当している、JTBの竹内さんという方にも再会しました。竹内さんは日光高原学園サポートのスペシャリスト、私たちの心強いパートナーです。コロナ禍を挟んでも担当者が変わらなかったことに私は安堵し、竹内さんとも懐かしい昔の話をしました。竹内さんは本来なら社内で管理職、それもかなり上のポジションに就くような方だと思のですが、変わらず日焼けした笑顔で「自分には役職より現場が一番です。北区の児童様や先生方のお役に立てることが、自分の生きがいであり使命だと思っています。若い社員に伝えていかなくてはならないことが、自分にはまだまだあると思っています。体が続く限り、北区様の日光を担当させていただきます。」と、ご自身の熱い思いを話してくださいました。

変化の激しい時代である今、同じことを続けること、またつないでいくことが、以前とは比較にならないほど難しいと感じることが多くあります。そのような中で、ご自身のお仕事に真摯に向き合い続けているお二人と再会できたことは、私にとって、教育の原点を見つめ直す機会になりました。学校には次々に新しいことに取り組んでいく現状がありますが、子供たちのために学校が「続けなくてはならないこと」、また次に「つなげなくてはならない大切なこと」は何かということ、もう一度立ち返って考えていきたいと思ひます。

二学期制の北区は間もなく学期末です。4月からの教育活動を「つづけ」「つなぐ」9月になるように、教職員一同、子供たちに日々向き合っています。引き続き、関係各位の皆様のご協力をいただけますよう、お願い致します。

6年 日光高原学園

8月8日(火)から10日(木)、2泊3日の行程で日光高原学園が実施されました。今回の宿泊学習では、実行委員会の子供たちを中心に、「つながりを大切にしたい、[自分も][みんなも]楽しめる日光高原学園にしよう」というめあてを決めました。宿舎では、互いに声をかけ合って動く様子や、お世話になる方々に礼儀正しく感謝の気持ちを伝えている姿が見られ、めあてを意識して参加できていることが分かりました。実施にあたり、各ご家庭で感染対策や健康管理にご協力いただき、ありがとうございました。

(6年担任 廣瀬)

★生活リズムを整えるために★

夏休み明けの生活リズムを整えるために、毎日の生活についてのチェックカードを、9月1日(金)に配付します。

2日(土)～11日(月)まで記入し、12日(火)に学校に提出していただきます。食事や睡眠などの状態を振り返ることで、お子さんが自分で体調管理ができるように、お声掛けをお願いいたします。